

拝啓

昨日と御坐側を接ぐ—— 忌懼
くもる事せん

存し今回の政変の對する特別
し御高見しりる教出御仰言は
道ふふ可く之を我と革命の心
其の御申上りたる事と正しき一様
極品の筆跡と御申上り是れ御言
辱しき。の條一言是非少なる間
一此言を國よりあるものにも
直直に誠をけりて御掬へて
古事と趨勢國民の言簡し一國下
子傾き加ふ。伊藤自ら天に倭
事れたる事及び自由党の奮力を
を其のこゝに書きたる以上一書
今の及母の局を事得るものせ
も之を可く天下に及國下の
顔き居るものと

此一節の元老株の巨額生局も同
事——得たる事を得たる事
御事あると御言の迂愚ふも或も未だ
くとは其の御言者—— 高直生
快直を得所と申入して入る

分程好きもその筆を附ふるふりへし
れ考へ目だ即ちその可きもふたれを
同題を所せしむるも直接此に同
係ふく又れ重大なる帝室の事
あれはあしむるも老翁の化せしむ
受けふるも非可しとなす

外交と云ふはともふく財政と甚だ肝
要も今後は社会の重要問題
もゆかり財政の上と起しんこれ考
へ松竹も留録の録致して其道
も御本とともなる事ありあは
甚だる由りゆすし十公閣下の御
監督をたすし御事となすゆす
の切望もして閣下の文部を御責任
も御度事なりゆすし之の就ても
ふせの多言を要せむはす自と御
所考御事ありゆすし又た故井
上も幸に御事ありゆすし其信あり

は他指し言度事ありあはるは
数と考へ考へられたる同くを用
の言のみも御事なり
以上唱呼ありゆすし其信あり
七言ありゆすし其信あり

待白

か
た
た

良
ハ

外交も云ふ迄もよく財政も甚だ肝
要も今迄政治社会の重要問題
もゆかり財路の上と起りてこれ
に松竹も留緯の餘故して其道
も御本と成るも其の事あり
甚だるものも御事と云ふ閣下の御
監督をたごらんと成るは
の切望するも閣下の文部を御責任
も御事と成るも其の事あり
不生の多言を要と成るは其の事あり
而も其の事あり又た故井
上も其の事あり其の事あり
は他指し言ひ度事あり其の事あり
其の事あり其の事あり其の事あり
の事あり其の事あり其の事あり
以上唱呼するも其の事あり其の事あり
七言の御事あり其の事あり

謹白

廿二年
九月

良八

大隈伯府閣下
御坐有

牛口区早稻田

大隈伯函下

大隈伯函



緘

芝草助舟十八番

有田自八

廿九年八月